

令和元年6月21日現在

機関番号：12601

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K17384

研究課題名（和文）修学パターンにおける歴史的社会的背景の影響－第二次世界大戦以降のホンジュラス－

研究課題名（英文）An analysis of school-enrollment patterns and socio-historical backgrounds in Honduras after World War II

研究代表者

芦田 明美（Ashida, Akemi）

東京大学・大学院教育学研究科（教育学部）・特別研究員

研究者番号：30749164

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,100,000円

研究成果の概要（和文）：歴史的な社会背景が、発生当時およびその後において個々の子どもたちの修学実態に及ぼした影響を明らかにすることを目的とし、第二次世界大戦以降に初等教育課程へ入学した子どもたちの修学記録を用いて分析を行った。その結果、近年の修学状況の傾向と同様に、最頻出の修学パターンとして留年を介しない卒業と低学年時の退学のパターンが交互に存在する状況が確認できた。また、軍事クーデターが連続して発生した時期には対象校への登録者数の増減が交互に見られ、教育へのアクセス自体が不安定になっていた状況が読み取れた。紛争に着目すると、発生直後よりも翌年以降に就学者数に減少が見られることが明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、個々人の修学実態および第二次世界大戦以降の国家の歩みに着目し、分析を行う。近年、詳細な分析に基づいた政策の妥当性、有効性が求められていることから、ミクロな調査が注目を集めている。学校記録を活用して一定規模の縦断的データを構築する本研究の手法は、特定条件下における傾向把握を行うことを可能にする。また、初等教育の完全普及を達成しつつある国の経験を分析し、後発開発途上国へ提言を検討することは、国際的に意義深いと言える。

研究成果の概要（英文）：This study aimed to clarify the relationship between individual children's school-enrollment situations and socio-historical backgrounds in Honduras after World War II by employing longitudinal data obtained from the school enrollment records. The results found that the most frequent enrollment patterns were a graduation pattern without any repetition, alternating with a drop-out pattern during the early grades. In addition, during repeated military coups, the target school registrations increased and decreased, indicating an unstable access to education. Especially during a conflict, the number of enrollments decreased in the second year of the conflict, and not right after the conflict had started.

研究分野：教育社会学

キーワード：国際教育開発 修学実態 ホンジュラス 縦断的データ 歴史的社会的背景 年代比較

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

1990年、基礎教育の普及を目指した「万人のための教育世界宣言 (Education for All: EFA)」が採択された。2000年には国際社会共通のミレニアム開発目標 (Millennium Development Goals: MDGs) が採択され、その中には「初等教育の完全普及の達成」が目標として織り込まれた。そのような状況の下、各国の初等教育就学率は改善の傾向にあったが、未だ教育の内部効率についての問題は残っていた。

これまで、就学率は高いが修了率に問題を抱える中米のホンジュラス共和国を対象とし、EFAやMDGs等の世界における基礎教育重視の潮流下において実施された諸政策による効果を、個々の子どもたちの修学実態の変化から捉え、明らかにすることを試みてきた。その結果、1990年以降、同国における教育政策および教育プロジェクトの数は顕著に増加し、子どもたちの修学状況は全体的に改善傾向にあることが確認できた。他方、1998年のハリケーン・ミッチ、2009年の軍事クーデターといった自然災害および政治事変が、子どもたちの修学状況に影響を与えている事象を観察することができた。このことから、教育は国家の置かれている国内外の状況に左右されるものであることを強く感じた。

教育とは、今日までの歴史社会の中で実践されてきたものであり、両者は相互に影響し合う関係にある。それゆえ、教育を歴史社会との関わりにおいて把握することが重要であると言える。このことを考慮すれば、EFA/MDGsの達成期限である2015年を目前に、現在も残る教育にかかわる種々の課題に対処するためには、さまざまな時代背景の文脈のなかで教育を捉え、その時代時代における特徴をつかむことが重要である。このような着想から、同国における歴史的な社会背景と個々の子どもたちの修学状況の関係を考察する本研究を実施した。

2. 研究の目的

本研究では、第二次世界大戦以降に初等教育課程へ入学した子どもたちの修学記録を縦断的に追跡して収集した。そして、個々人の修学実態と歴史的な社会背景をつき合わせ、その関係を分析し、検討を行った。自然災害や政治事変といった歴史的な社会背景が、発生当時およびその後において、個々の子どもたちの修学実態にいかなる影響をおよぼしたのか、明らかにすることを目的とした。

3. 研究の方法

まず、学校保管の学籍登録簿等から個々の子どもたちの修学記録を縦断的に収集したデータベースを構築した。次に、暦年の教育開発政策および自然災害や社会事変による子どもたちの修学実態への影響を検証するため、第二次世界大戦以降の歴史的な社会背景や、同国の教育やその状況に関する資料を収集した。そして、歴史的な社会背景および教育政策等と、子どもたちの修学パターンおよび個別の家庭背景情報を照らし合わせ、いかなる条件や要因の生じる際に、どのような政策が有効か、検討を行った。

4. 研究成果

卒業あるいは退学により対象校から離籍が確認できるまで、学校保管の学籍登録簿及び成績一覧表の情報を個人単位で縦断的に収集し、1951年から1979年の間に同国首都の小学校1校に入学した児童3,271名を対象とした。入学年代ごとの違いを明らかにするため、1950年代グループ、1960年代グループ、1970年代グループ、の3グループに分け、各グループを一つのコーホートとして集計した。対象校における児童の修学実態をパターンとして捉え、それらを頻出順に並べ比較を行なった。また、歴史的な社会背景及び経済状況に関する情報を、同国の国勢調査、各種資料等から収集し、修学動向とつき合わせて検討を実施した。

(1) 修学パターン分析結果

1950年代入学グループにおける分析対象者は933名、その修学パターンは178通り確認することができた。そのうち10人以上が該当するパターンは14通り、117通りのパターンはいずれも1人のみのケースであった。最頻出の修学パターンは2年時の中途退学 (1P2D) であり、次いで留年無しのストレートでの6年生修了 (1P2P3P4P5P6P)、3年時の中途退学 (1P2P3D) であった (表1)。留年を含むパターンに着目すると、最頻出のものでも全体の5.7%を占めるに過ぎない。

1960年代入学グループにおいては、分析対象者は932名、そのパターンは183通りを確認することができた。最頻出のパターンは留年無しのストレートでの6年生修了、次いで2年時の中途退学である。留年を含むパターンで最頻出のものは、全体の5.9%を占めるに過ぎない。

1970年代入学グループにおける分析対象者は829名、そのパターンは130通りを確認することができた。最頻出のパターンは留年無しのストレートでの6年生修了、次いで2年時の中途退学、1年生留年後翌年に1年生に再登録した後の中途退学 (1R1D) であった。留年を含むパターンで最頻出のものは全体の7.7%を占めるに過ぎない。

これら3つの入学年代グループ別の分析結果においては、これまでの近年の修学パターンを分析し明らかになった結果と同様、最頻出のパターンとして、卒業と退学のパターンが交互に存在する状況が確認できた。また、ホンジュラスをはじめとするラテンアメリカでは、留年が退学に繋がると多くの諸文献が指摘してきたが、留年率の高さからイメージする、留年が頻出

する状況は、パターンからは確認できなかった。つまり、修学パターンの分析からは、多くの子どもたちが留年を繰り返さずとも、退学に至っていた状況を確認することができた。

表1 1950年代入学グループの修学パターン

頻出順位	修学パターン	児童数	%
1	1P2D	230	24.7
2	1P2P3P4P5P6P	101	10.8
3	1P2P3D	97	10.4
4	1N1D	53	5.7
5	1R1D	43	4.6
6	1P2P3P4D	35	3.8
7	1P2R2D	30	3.2
8	1P2P3P4P5D	19	2.0
9	1P2P3R3D	16	1.7
10	1P2P3P4P5P6D	13	1.4
10	1P2P3P4R4D	13	1.4

(2)歴史的社会的背景との関連

研究対象地域における識字や教育歴といった当時の状況を、国勢調査による調査結果データを用いて検討したところ、1960年代においては、そもそも地域において教育を受けた経験がある層は50%にも満たず、その当時就学可能であった児童のグループ自体が、当該地域における少数派に属していた。1970年代においては、教育歴のある層が当該地域において7割を占めるようになったものの、就学できたとしても卒業までたどり着くことのできない者が大半を占めていた。

また、データ対象年代において生じた政治的事件、自然災害、国家開発計画、教育開発における歴史的な事象および関係するイベントをまとめ、修学状況との検討を行なった。その結果、軍事クーデターが連続して発生した時期には対象校への登録者数の増減が交互に見られ、教育へのアクセス自体が不安定になっていたことが読み取れた。特に、歴史的な事象の一つである紛争の発生に着目すると、発生直後よりも翌年以降に就学者数に顕著な減少が見られた。

1970年代に国家開発計画が開始された後、登録者数および最終学年への到達者数は増加した様子が確認できたが、この開発計画は実際には機能せず、形だけのものだったとの指摘もある。それゆえ、開発計画自体が子どもたちの修学実態に好ましい影響をもたらさず、就学者数の増加につながったとは言いきれない。

上述した研究成果については、学会における研究成果発表を行った。発表時に得られたコメント等をもとに、研究実施期間終了後も引き続き、論文の作成を進めている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 1 件)

(1) 芦田明美、個人の修学パターンからみる修学実態の国内 3 地域比較—中米ホンジュラス共和国における縦断的データから—、東京大学大学院教育学研究科紀要、査読無し、第 58 巻、2019、191-200

〔学会発表〕(計 6 件)

(1) Akemi Ashida, A comparison of enrollment patterns and socio-historical backgrounds after World War II in Honduras. 60th Comparative International Education Society (CIES). 2016.

(2) 芦田明美、修学パターンからみる個々の子どもたちの修学実態に関する国内 3 地域比較—中米ホンジュラス共和国における縦断的データから—、第 27 回国際開発学会全国大会、2016 年

(3) Akemi Ashida, Comparative analysis of children's enrollment patterns in different areas of Honduras. 61st Annual Conference Comparative and International Education Society (CIES). 2017.

(4) 芦田明美、中米ホンジュラス共和国の子どもたちの修学実態に関する地域および年代比較：留年と退学のパターンからの考察、日本比較教育学会第 54 回大会、2018 年

(5) 芦田明美、ホンジュラス共和国初等教育における歴史的社会的背景と修学実態の関連—修学パターンからの考察—、日本教育社会学会第 70 回大会、2018 年

(6) 芦田明美、中米ホンジュラス共和国の子どもたちの修学実態の変容—国内 3 地域および年代比較からの考察—、国際開発学会第 29 回全国大会、2018 年

〔図書〕(計 1 件)

(1) Akemi Ashida, Union Press, The actual effect on enrollment of “Education for All”: Analysis using longitudinal individual data, 2018, 170

6 . 研究組織

(1)研究分担者
なし

(2)研究協力者
なし

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。